

らしんばん



議会報告

2015年12月議会号
発行日 / 12月31日

発行：静岡県議会議員 鈴木すみよし事務所



夢の実現 先輩に続け！

在りし日の戸塚洋二先生と施設内
(市議の時にスーパーカミオカンデにて)

目次

1. 一年の振り返り 12月議会 会富士山世界遺産センター	P1
2. 常任委員会「文教警察 委員会」での主な質疑	P2
3. 火山防災対策について 先進地から学ぶ	P2 P3
4. 地下水の利用可能 (賦存量)調査報告	P3
地域課題と進捗状況	P2・3
5. 議会外の視察・研究報告	P4
CNFへの取り組み	P4
12月議会で決定した 国へ提出される意見書	P4
ホットなつぶやき	P4
県政相談窓口	P4

ハイライト



富士市開催で県主催の若
者育成支援強化月間大会



TPP交渉に参加した農水
省担当者と意見交換



平成26年度静岡県決算
委員会の議事運営



自民党看護支援議連の担
当として医療現場を視察



森林の国際認証取得拡
大で、林業活性化へ



第16回しずおか市町対
抗駅伝競走大会の号砲



文警委員で高齢運転者
認知機能検査を体験

1. 一年の振り返り 12月議会富士山世界遺産センターを巡る論戦

最初に、今年を振り返り明るい夢ある出来事に触れたいと思います。本県初のノーベル物理学賞に浜松出身の天野浩先生が輝き、今年は県内随所で学生達に大きな夢を与えました。さらに、表題に載せさせていただいた、我が郷土の先輩、故戸塚洋二先生に続くニュートリノ研究者の梶田隆章先生が物理学賞を受賞されました。地元富士市では、戸塚先生の功績を後世に伝えることも検討中と聞き、今年度、私が文教警察委員長に就き、児童・生徒・学生達とふれあう機会が増えた中、「人を育てる」大切さをしみじみと感じています。

さて、富士山世界文化遺産センター建設についてこれまでの経緯を報告します。

同施設は、富士山世界遺産としての文化的価値や保全など、また観光を含めて幅広い情報発信の場として、ユネスコが求める条件を満たすための重要な施設であり、デザインコンペにより選ばれた「逆さ富士」をイメージした外観は、シンボルとして来訪者の関心を高めるとされています。

当初予算は、27億円余でしたが6月に行われた入札が不調に終わり、9月の報告では5億円余の増加が見込まれるとのことでした。理由は、震災復興や東京オリンピック・パラリンピックなどによる建設コスト上昇ということでしたが、特殊な外観故に安全対策も増加することもあり、当初の見積りの甘さと、デザインにこだわりすぎる疑念、山梨県施設との比較、ユネスコへの提出期限、県民への説明責任不足等を理由に、9月議会は議案上程を見送り、12月議会では、機能への影響を極力抑えて3億円余に増額を圧縮し、審議したものです。

年明け早々のユネスコへの提出期限や再入札で落札する保証があるのか等、また、本来機能が損なわれていないか、「当局の覚悟」も含め、議会内ではもちろんのこと、会派に担当者を招き幾重にも議論を重ねた結果、「容認」となりました。

当局は、議会への丁寧な説明が遅れ十分でなかったことを認め、「混迷を深く反省し責任を感じる」ということを明確にしたことで容認に至りました。

県民が納得するよりよいものを目指します。

今年度は、常任委員会 文教警察委員会委員長 静岡県青少年問題協議会委員
静岡県交通問題協議会参与 第16回県市町村対抗駅伝競走大会顧問 に就任中



2. 常任委員会「文教警察委員会」での主な質疑応答(委員長報告)

平成27年5月より文教警察委員会(所管:教育委員会、公安委員会)委員長に就任

公安委員会関係では、年少者(16歳未満)のゲームセンターへの立ち入りは保護者同伴では午後10時まで可能だが厳しい指導を継続していく。警察官の退職状況は今後10年間で全警察官の約35%(2,100人程度)が退職すると見込んでおり、捜査技術の伝承については、ベテラン警察官が現場の警察官に実践的な指導教養を行う「技能指導官制度」や、警察官OBを再任用し専門的な知識や技能に係る伝承教育を行う「伝承官制度」で対応していく。その他、パリの同時多発テロを受けての本県警察のテロ対策、改正道路交通法の認知機能検査、小規模郵便局強盗防止対策、高速道路の逆走事案の実情と対応方法などの質疑がありました。

教育委員会関係では、ICTを活用した教育の推進と教員の多忙化について、ICTの効果的活用を図ると同時に、ICTを無理のない範囲で使うことにより、教員の負担を削減したいと考えている。教員への支援としては、「総合教育センター」における「静岡県の授業づくり」データベースの中で、実践的事例集や教員が作成した指導案、優れた教材やソフトを共有し、教員の負担を軽減していくとの説明がありました。

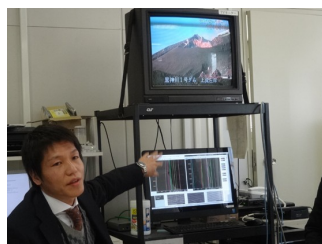
請願審議「教育格差をなくし、子どもたちにゆきとどいた教育をすすめるための請願」では、委員長として、審査は請願内容全般をしっかりと網羅しようという思いで各委員に質問をしていただき、当局から請願項目を順次確認したが、委員会としては「不採択」になり、その経過報告をさせていただいた。その後、請願者である共産党県議からは、更に踏み込んだ審議内容について再質問があり、それに対し丁寧に答弁させていただいた。この請願については、本会議の採決でも「不採択」となりました。しかし、請願者の要望は全く意味の無かったものではなく、このような審議を通じて行政も議会も今後の活動に活かされるものと期待しています。

3. 火山防災対策について先進地から学ぶ

このところ火山噴火防災に対する緊急的な取り組みが高まっています。昨年の岐阜・長野両県にまたがる御嶽山噴火による大災害、鹿児島県の口之永良部島、近郊では箱根大涌谷など、火山噴火活動が活発な時期にさしかかっています。もちろん私たちの最大の課題は富士山噴火で、昨年より住民の避難訓練を取り入れた防災訓練が、本県だけでなく山梨・神



阿蘇山ハザードマップには、イラストを用いてわかりやすく火山活動を説明している。



鹿児島市危機管理部の会議室には、桜島南岳火口のモニターカメラ映像と、地震計が表示されていた。

奈川両県とも広域連携で実施されました。

今回、国内ではトップクラスの火山噴火と防災に関する取り組みを行っている3地域を視察し、富士山噴火防災の参考とさせていただきました。

最初は「神奈川県温泉地学研究所」で、火山と温泉は深い結びつきがあり、温泉の変化が火山活動に直結していることから研究を進めているところです。本県には

地域の課題と進捗状況 (各地の要望から)



潤井川山橋付近。北関東・東北の豪雨災害を受けて、県が堤等を緊急調査し課題が見つかった。



青葉台小学校南西側交差点改良は事業着手準備制度を導入。ワークショップを経て地元意見を集約し事業化へ。



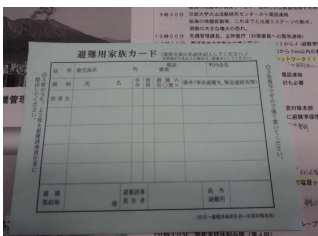
岩本山付近で農業法人が取り組む、富士ブランドの「富士ネギ」畑。首都圏での販売も軌道に乗りつつあるという。



潤井川と清水川の合流地点に設けた排水門。隣接する香西新田など農地を水災害から守るために設置された施設。



これからも
いっしょに
パワーアップ!



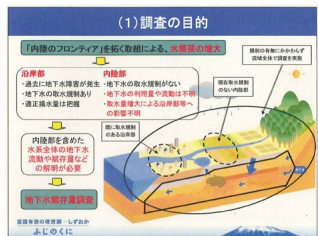
鹿児島市が導入している三枚綴りの避難用家族カード。避難で家族が別れても居場所がわかる。

このような専門機関はありません。熊本県は阿蘇山を、鹿児島市は桜島を抱え、永年に亘る火山研究と防災のノウハウが充実しています。静岡県は地震防災については先進地ですが、火山噴火は、これらの地域を大いに参考とする必要があります。同時に、地域間連携も重要で、例えば、合同災害訓練があれば研究成果の共有や災害協定の締結などが挙げられます。火山は特有の課題があり、富士山そのものを研究することが重要です。降灰災害対策等も火山規模により大きく異なるからです。

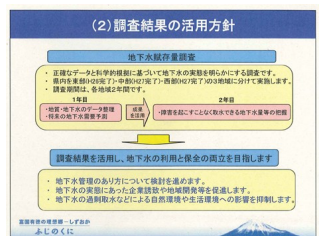
4. 地下水の利用可能(賦存量)調査報告

賦存量調査とは、地下水の流れや将来需要予測、利用可能量等を把握することです。

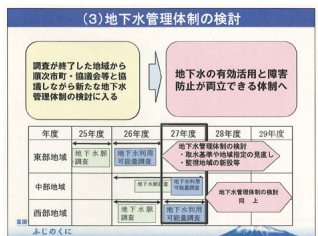
岳南地域の場合は、昭和30年代後半からの高度成長に伴う地下水の過剰な揚水により、地下水位低下や塩水化等を発生させ、市民生活に大きな影響を与え、企業活動にも深刻なダメージを与えました。県では工業用水道を導入することで地下水の減少を抑え、市民生活や企業活動を維持してきました。しかし、工業用水道の導入により企業の経済的な負担が増え、これまでも水道料金の値下げを県に迫り、二部料金制度の導入



調査目的は、内陸のフロントティアを拓き取り組みで水需要が増加し、地下水の賦存量調査を行った。



調査結果の活用方針は、地下水の賦存量調査の結果を活用し、地下水の利用と保全の両立を目指す。



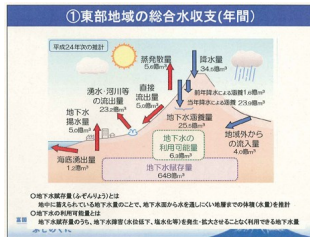
地下水管理体制の検討では、地下水の有効活用と障害防止が両立できる管理体制へ。

などで対応してきましたが、更なる料金値下げを要望し、可能であれば地下水利用量を増やせないかという期待もあります。最近では企業の節水効果等もあり水の利用量も減少傾向です。

年間の降水量は34.5億立方メートルですが、地下全体では年間降水量の18.8倍の648億立方メートルが蓄えられていると試算しています。この量の

うち、地下水障害(水位低下や塩水化等)が発生しない、または拡大しない地下水利用可能量は、年間6.3億立方メートルと算定しています。

県東部地域を19地域に分割し利用可能量を算定した結果、小山町、御殿場市、裾野市、長泉町、清水町、



東部地域の総合水収支。入りは、降雨や他地域から流入。出は、河川や湧水の流出、蒸発と揚水等。



県東部を19区域に区分し、それぞれの利用可能量を算出した。東部は可能で西部は困難という結果に。

三島市、沼津市の一部は、現在の揚水量が利用可能量を下回っており、地下水の開発余力が比較的高いと評価。

一方で、愛鷹山南西から富士川東側、富士宮市南部に至る岳南地域は、揚水設備が集中しているために現状の揚水量は利用可能量を上回っており、地下水障害抑制のためには新たな地下水開発は困難と評価しています。

この調査結果から、岳南地域ではこれからも工業用水と併用した水利用が避けて通れない状況といえます。地域の企業活動を守るためにも、工業用水料金の値下げに向けた取り組みは、重要な課題として今後も続き、県や水のユーザーも一体となって実現可能な仕組みづくりに取り組んでいかねばなりません。



猪之頭地区振興プロジェクトとして取り組む、水田の大規模区画整理。集約化し農作業しやすい環境づくりへ。



神戸一丁目町内付近の滝川中流域は、郷土史に明治40年頃大きな水害発生記録が見つかり調査と監視強化へ。



今年度河川整備を終えた春山川だが接続する下流域には葎が生え河床も高い。整備の効果を生かすためにも継続を。



12月の東比奈防災訓練は富士市立高校を会場に実施。実際の避難所となり関連施設を見ながら実践的訓練が実現。

5. 議会外の視察・研究報告

原発関連、観光振興、エネルギー、山岳救助、特別支援、砂防を学ぶ



オーストリアのツヴェンテンドルフ原子力発電所。国民投票で完成後一度も稼働せず廃炉に。総合的なエネルギー事情も考慮して結論づけた。



スイス国内の使用済み核燃料などの高濃度放射線廃棄物を一時保管している施設である「ヴァーレンリンゲン中間貯蔵施設」。



ドイツバイエルン州フッセン市東アルゴイ特任大使を務めるヴェルヘルムシュヴェツェク氏から地域資源の活用方法について学ぶ。



長野県警航空隊と山岳救助隊から、国内屈指の山岳遭難救助の現状を学ぶ。「信州の山の安全は俺たちに任せろ」という意識で取り組んでいる」



石川県教委は文科省のモデル指定を受け、特別支援学校と幼稚園・小・中・高等学校の児童生徒がともに学ぶインクルーシブ教育に取り組む。



静岡県議会の超党派による「治山・砂防事業推進議員連盟」の現地視察。静岡市葵区長尾「長尾南沢」通常砂防事業では砂防ダムを建設中。

CNF（セルロースナノファイバー）への取り組み

このところ、未来の新素材で針葉樹を原料とする、「鉄の5倍の強度と1/5の軽さ、環境に優しい」CNFに対する各方面の取り組みが活発化しています。

昨年の夏頃に声が上がリ、私も県企業局と連携して同時期頃から取り組んできたものですが、本県では「CNFフォーラム」を立ち上げ、産官学連携で実用化に向け本格的に動き出した様に感じます。県や国だけでなく、来年度からは富士市や富士商工会議所が専従の組織編成を行うことを表明し、川勝知事は「富士市をCNFのメッカに」と表現しています。

らしんばん9月議会号でお伝えしたように、「富士市の中小企業がCNFで地域再生を」が私の目標です。

今後の取り組みは、1月25日に富士市内で「CNFを新製品に活かしたい企業とCNFを製造する事業者とのビジネスマッチング」を開催予定で、国は「CNF住宅部材の製品開発」と「CO2削減等地球温暖化対策への可能性調査」を、県は「CNFに関する最新情報提供と人材育成支援」、「地域企業と大学との共同研究」等を本年度から平成30年度まで計画しています。

◆12月議会で決定した国へ提出される意見書

- ①教職員定数削減の慎重な議論を求める意見書
- ②災害ボランティア活動への割引制度を求める意見書
- ③自動車関係諸税についての意見書
- ④少人数学級の推進と義務教育費国庫負担割合の復元を求める意見書
- ⑤夜間中学校の整備と拡充を求める意見書
- ⑥社会資本老朽化対策の充実を求める意見書

◆ホットなつぶやき

4年後の県議選に向け、「静岡県議会議員選挙区調査特別委員会」の委員になりました。委員は定数削減の可能性のある？選挙区からの議員で構成されています。本県は54,565人／議員で「一票の格差」問題として捉えれば、全国9位で1議員あたり人口の多い県です。それでも減らすか3年かけて議論します。

県政相談窓口

地域の課題、道路・河川等の整備などについてのご相談窓口です。市と県、国の担当範囲が明確でない場合もありますが、こちらで判断致しますので、区別なくお気軽にお問い合わせ下さい。

ご相談いただいた内容については、必要に応じ関係機関に確認しますが、内容に応じてお時間がかかることもありますので、ご容赦下さい。

発行者：静岡県議会議員 鈴木すみよし事務所

「県政相談窓口」および「らしんばん」連絡先

静岡県富士市比奈1418番地の2F 417-0847

☎0545-34-0683 FAX.0545-38-0070

メールアドレス himena@tokai.or.jp

ホームページ <http://sumiyoshi.info/>

ブログ <http://blog.goo.ne.jp/>

